

第2節 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動状況

1 広域移動状況

平成20年度に近畿ブロックで排出された産業廃棄物のうち中間処理又は最終処分のために産業廃棄物処理業者へ委託された産業廃棄物量は、2,575.4万トンとなっており、このうち、26.9%に当たる692.7万トンが排出府県を越えて処理されている。692.7万トンの広域移動量のうち、562.9万トンが中間処理目的、129.8万トンが最終処分目的で移動している。(図5-20参照)

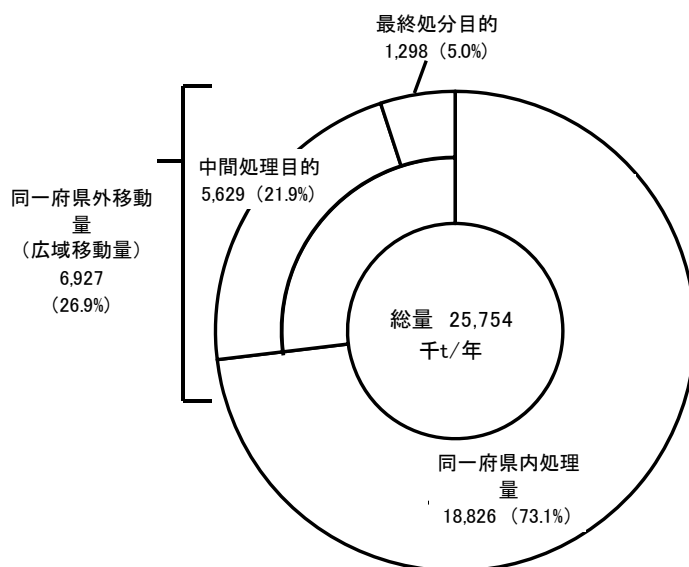


図5-20 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動 (平成20年度)

府県別にみると、大阪府からの府外搬出量が近畿ブロック全体の広域移動量の36.8%で最も多く、次いで、兵庫県が25.7%、以下、京都府が14.3%、滋賀県が9.2%となっている。(図5-21参照)

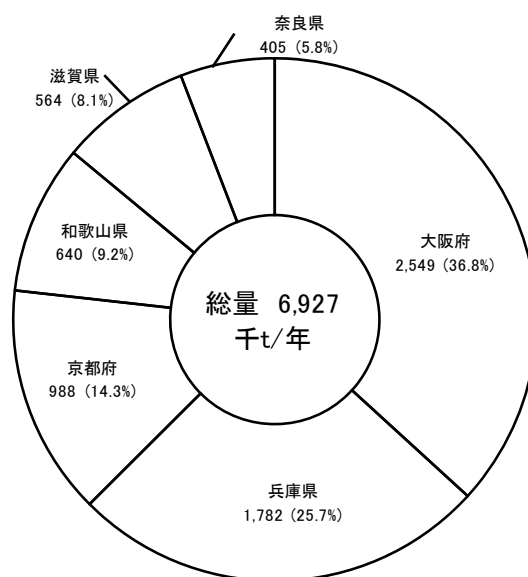


図5-21 近畿ブロックにおける府県別の産業廃棄物の広域移動 (平成20年度)

中間処理目的で移動した産業廃棄物量を府県別にみると、大阪府からの府外搬出量が189.8万トンで最も多く、次いで、兵庫県が149.1万トン、以下、京都府が91.2万トン、滋賀県が53.2万トンとなっている。

また、最終処分目的で移動した産業廃棄物量を府県別にみると、大阪府からの府外搬出量が65.1万トンで最も多く、次いで、兵庫県が29.1万トン、以下、和歌山県が22.9万トン、京都府が7.6万トンとなっている。(図5-22参照)

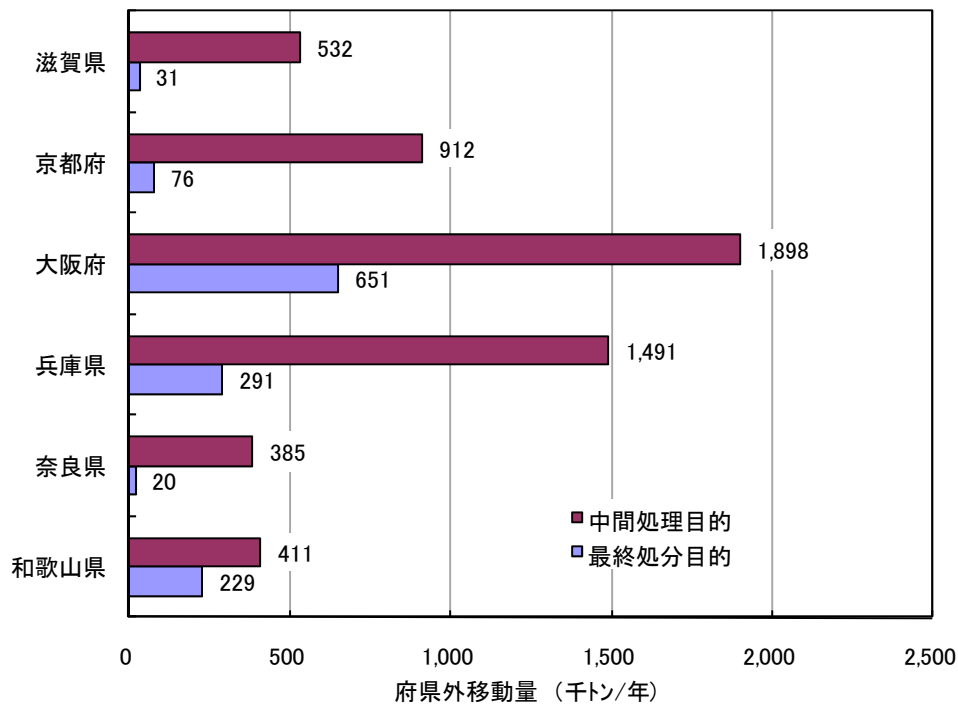


図5-22 近畿ブロックにおける府県別・移動目的別の産業廃棄物の広域移動(平成20年度)

2 府県外最終処分状況

中間処理のために産業廃棄物処理業者へ委託された産業廃棄物量について、処理後の最終処分量を推定し、最終処分のために産業廃棄物処理業者へ委託された産業廃棄物量と合計した結果は、表 5-2、図 5-23 のとおりである。

- 1) 中間処理目的（図 4-14）で移動した産業廃棄物は、種類ごとに処理後の最終処分量^{※1}を算出し、更に、移動先の都道府県での中間処理後の最終処分先^{※2}を推定し、産業廃棄物を排出した府県と最終的に処分された都道府県を推定した。
- 2) 最終処分目的（図 4-15）で移動した産業廃棄物には、他の都道府県で排出したものが当該府県内の中間処理業者で処理された後、他の都道府県で処理される最終処分量が含まれている。このため、最終処分目的の府県間移動量を、当該府県で発生した移動と、中間処理目的で当該府県に搬入された後、処理後の他の都道府県へ移動する量に分けた^{※3}。
- 3) 1) と 2) の結果を合せて、近畿ブロックからの最終処分量に基づく、広域移動量とした。

※1～※3の計算式については、巻末参照

表 5-2 府県外最終処分状況（最終処分量換算）

（単位：千t/年）

処分先地域	排出地域	計	排出地域					和歌山県
			滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	
滋賀県		18		12	2	0	4	0
京都府		6	2		2	2	0	0
大阪府		25		4		7	0	14
兵庫県		1,327	25	47	857		14	385
奈良県		47	2	5	32	2		5
和歌山県								
ブロック内計		1,422	29	67	893	11	18	403
ブロック外計		332	6	13	91	211	3	9
北海道・東北		0		0				
関東		0			0	0		
中部		14	2	4	4	1	3	0
中国		146	3	5	21	110	0	7
四国		3				3		
九州・沖縄		169	1	4	66	97		1

注) 0は500t未満、空欄は該当なし

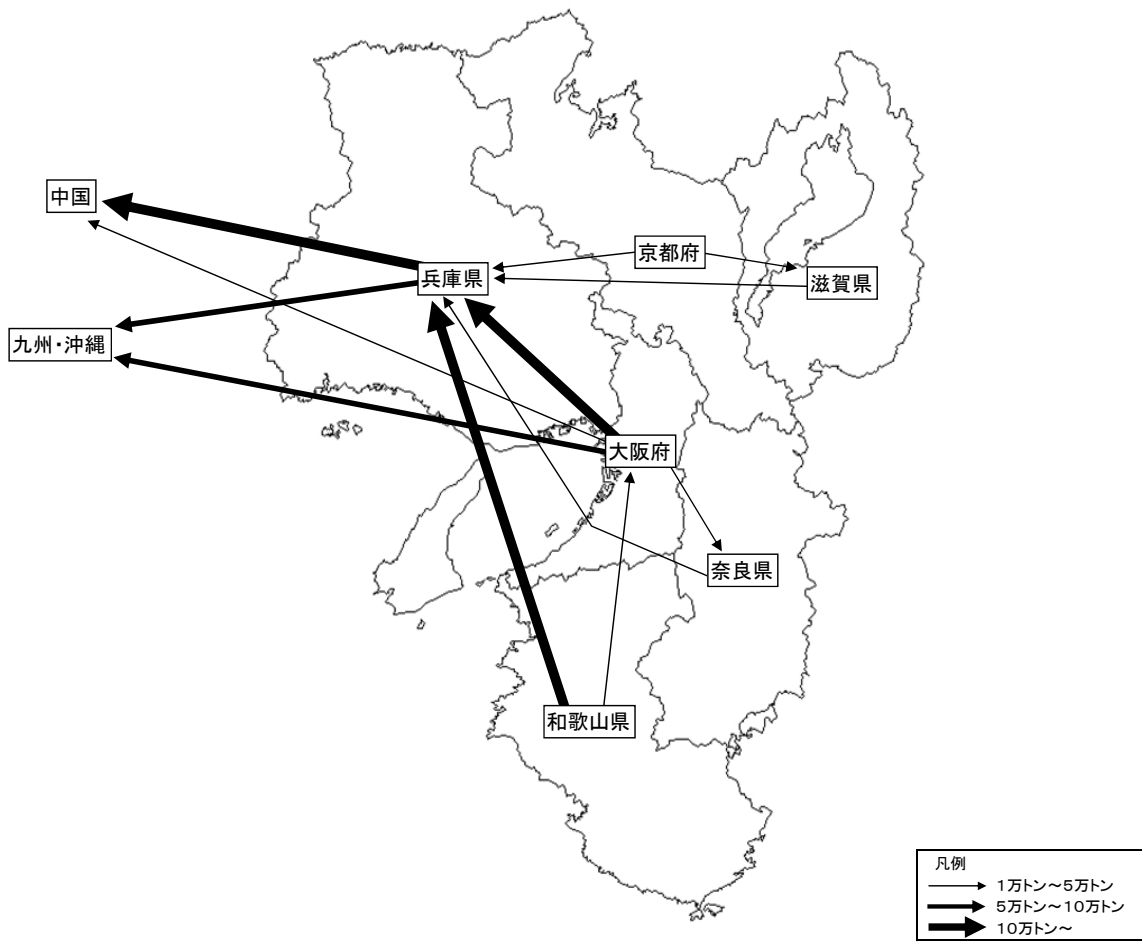
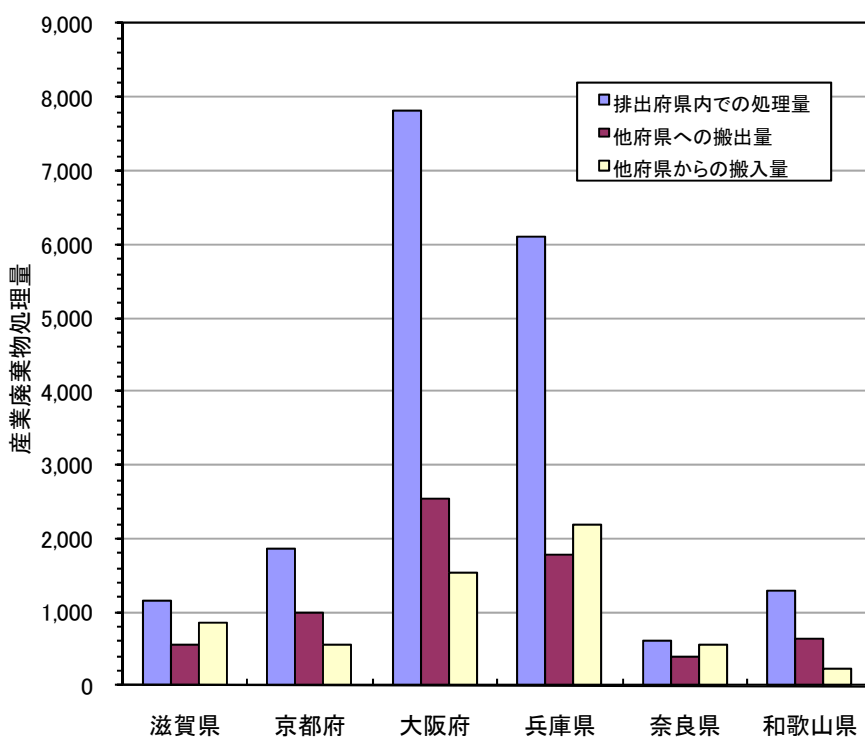


図 5-23 府県外最終処分状況（最終処分量換算）

3 府県別の搬入・搬出状況

各都県の産業廃棄物処理業者の処理実績に基づく処理状況をみると、図 5-24 のとおりである。

- ①各府県とも排出府県内での処理量が最も多くなっている。
- ②兵庫県は搬入量が搬出量より多くなっており、滋賀県、奈良県も同じ傾向である。
- ③大阪府は搬出量が搬入量より多くなっており、京都府、和歌山県も同じ傾向である。
大阪府は、搬出量が搬入量の約 1.6 倍となっている。



(単位:千トン/年)

	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
排出府県内での処理量	1,157	1,853	7,808	6,103	618	1,287
他府県への搬出量	564	988	2,549	1,782	405	640
他府県からの搬入量	861	554	1,546	2,184	549	223

図 5-24 近畿ブロック内の排出府県内処理と排出府県外での処理の状況

4 種類別の移動状況

近畿ブロックにおける産業廃棄物の府県外移動量を廃棄物の種類別にみると、中間処理目的の場合、がれき類及び汚泥の2品目で約5割を占めている。最終処分目的の場合、汚泥及び鉱さい、廃プラスチック類の3品目で約7割を占めている。(図5-25参照)

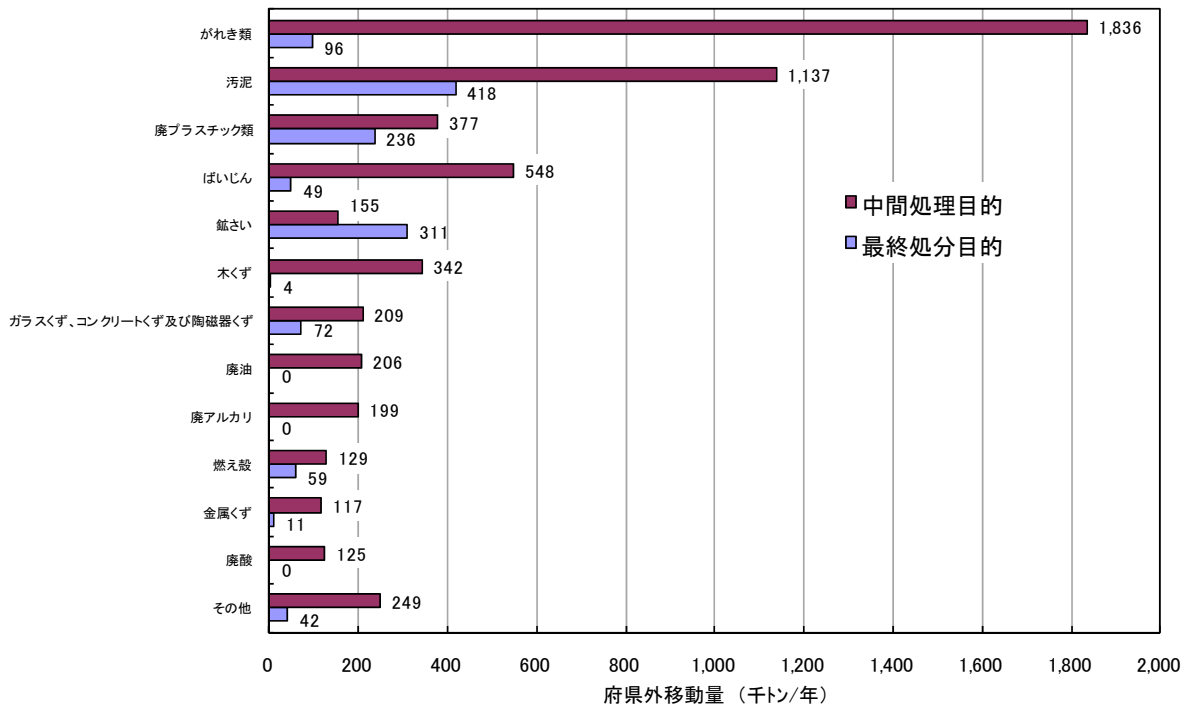


図5-25 近畿ブロックにおける種類別の産業廃棄物の広域移動（平成20年度）

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理される主な8種類の広域移動状況をみると図5-26～5-33のとおりである。

(1) がれき類

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理されるがれき類は、中間処理目的量が183.6万トン、最終処分目的量が9.6万トンとなっている。

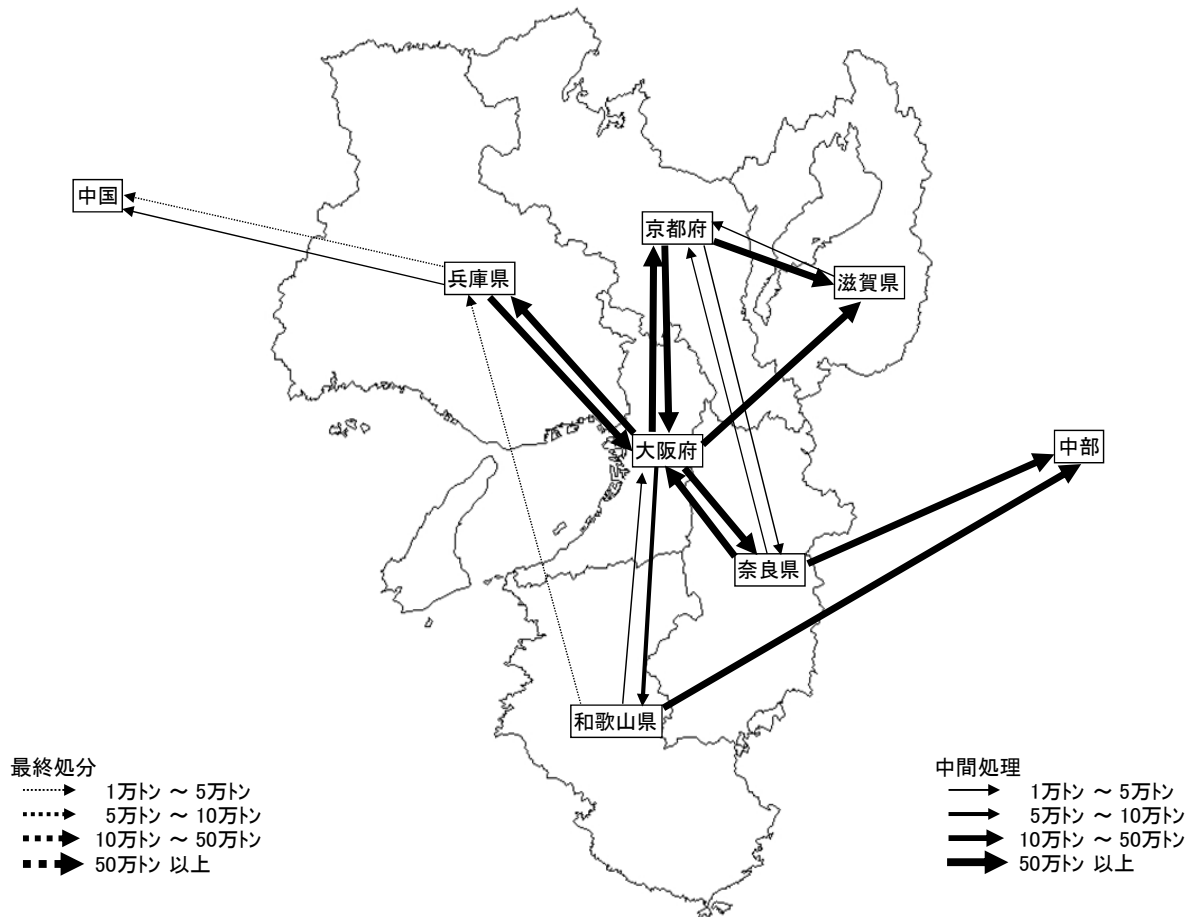


図5-26 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量（がれき類）

(2) 汚泥

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理される汚泥は、中間処理目的量が 113.7 万トン、最終処分目的量が 41.8 万トンとなっている。

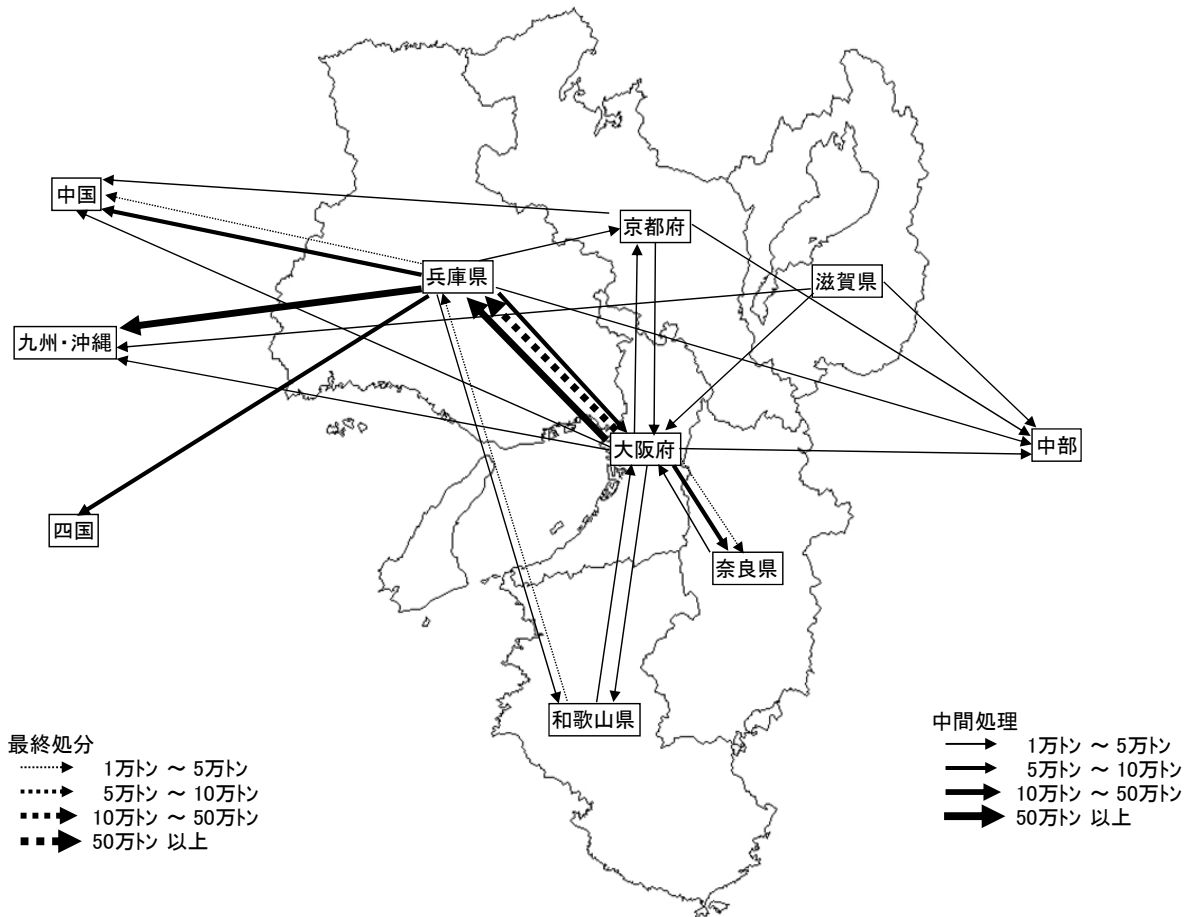


図 5-27 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量（汚泥）

(3) 廃プラスチック類

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理される廃プラスチック類は、中間処理目的量が 37.7 万トン、最終処分目的量が 23.6 万トンとなっている。

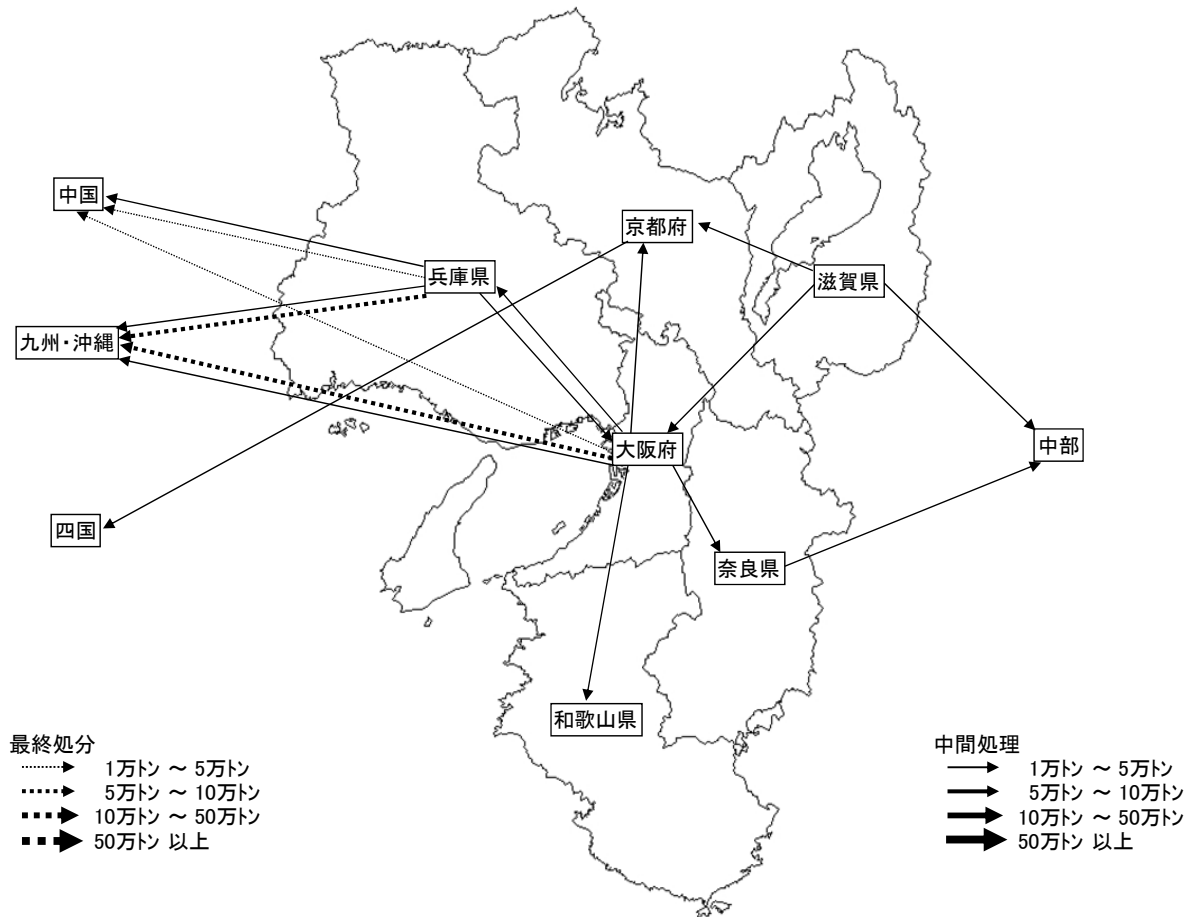


図 5-28 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量（廃プラスチック類）

(4) ばいじん

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理されるばいじんは、中間処理目的量が 54.8 万トン、最終処分目的量が 4.9 万トンとなっている。

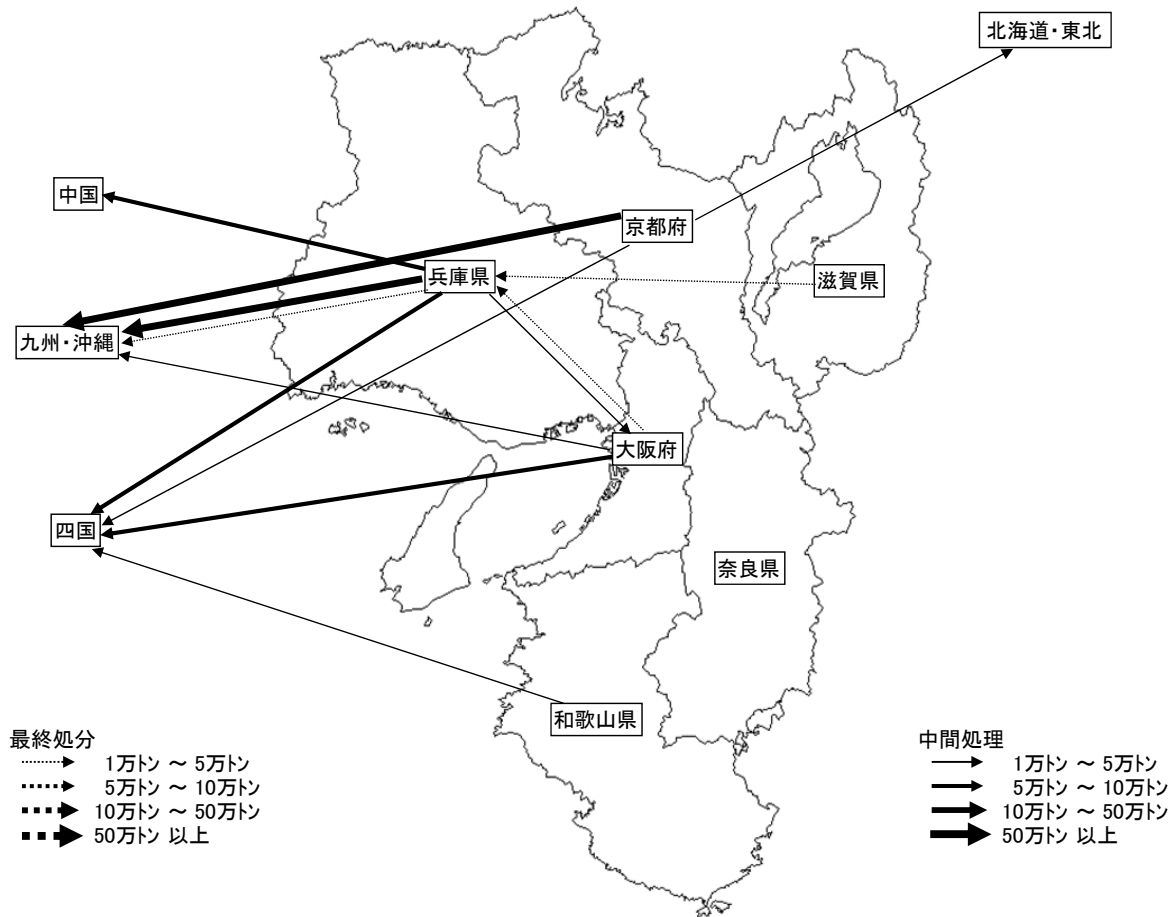


図 5-29 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量 (ばいじん)

(5) 鉱さい

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理される鉱さいは、中間処理目的量が 15.5 万トン、最終処分目的量が 31.1 万トンとなっている。

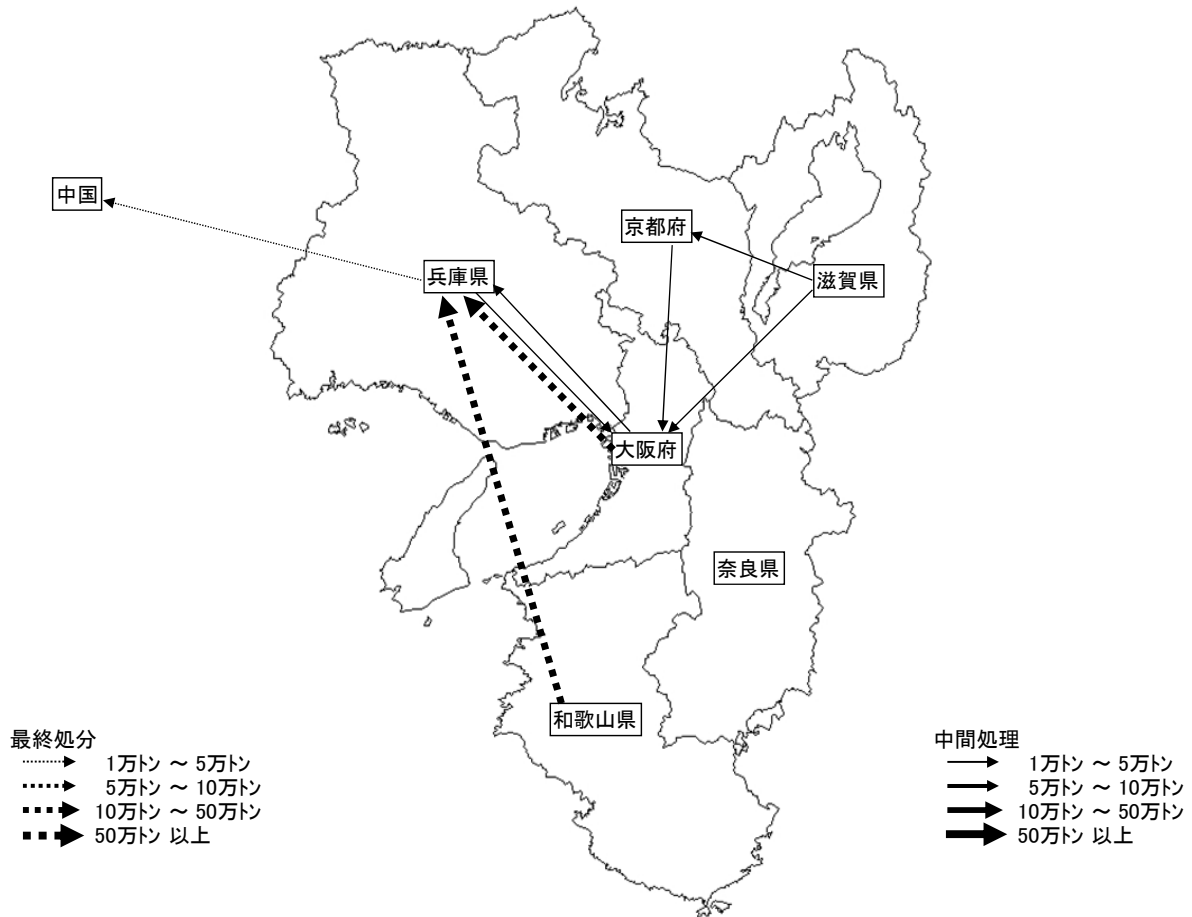


図 5-30 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量（鉱さい）

(6) 木くず

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理される木くずは、中間処理目的量が 34.2 万トン、最終処分目的量が 0.4 万トンとなっている。

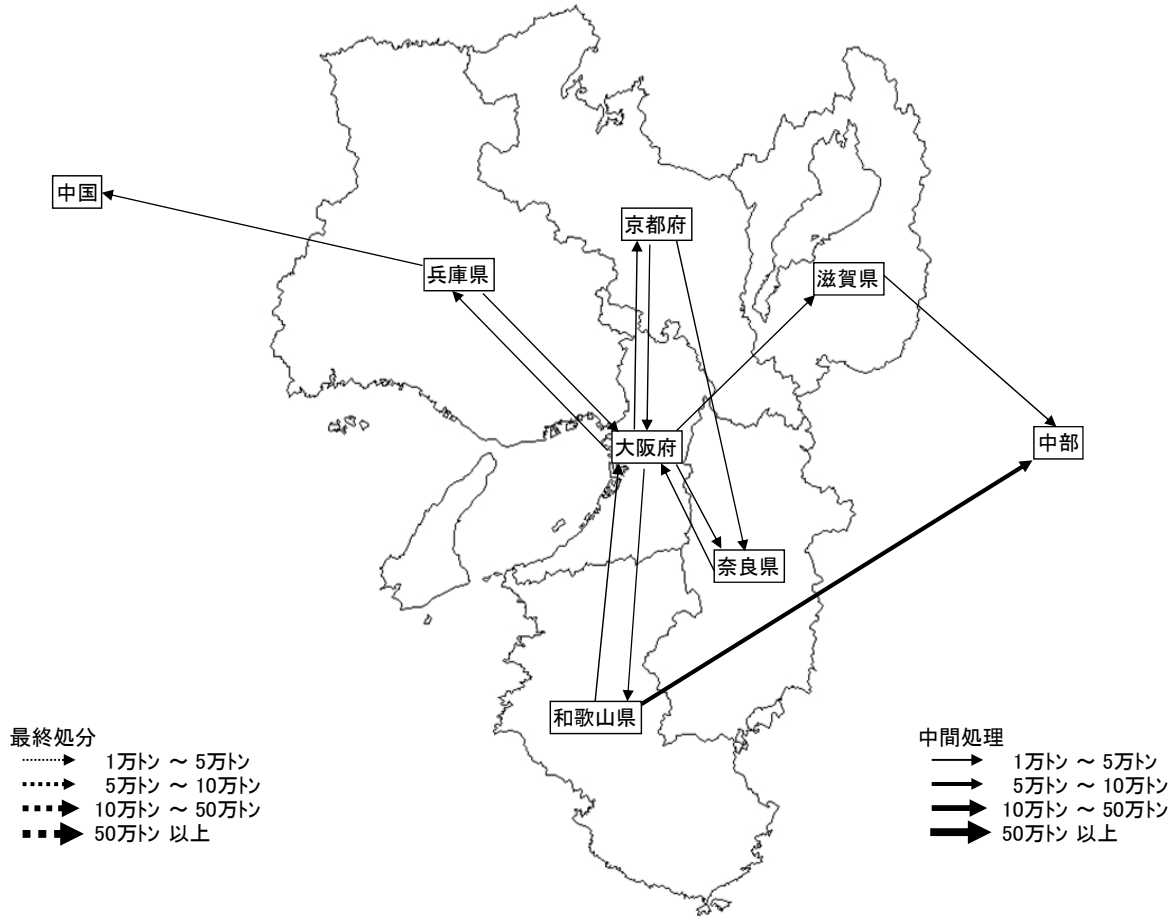


図 5-31 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量（木くず）

(7) ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理されるガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずは、中間処理目的量が 20.9 万トン、最終処分目的量が 7.2 万トンとなっている。

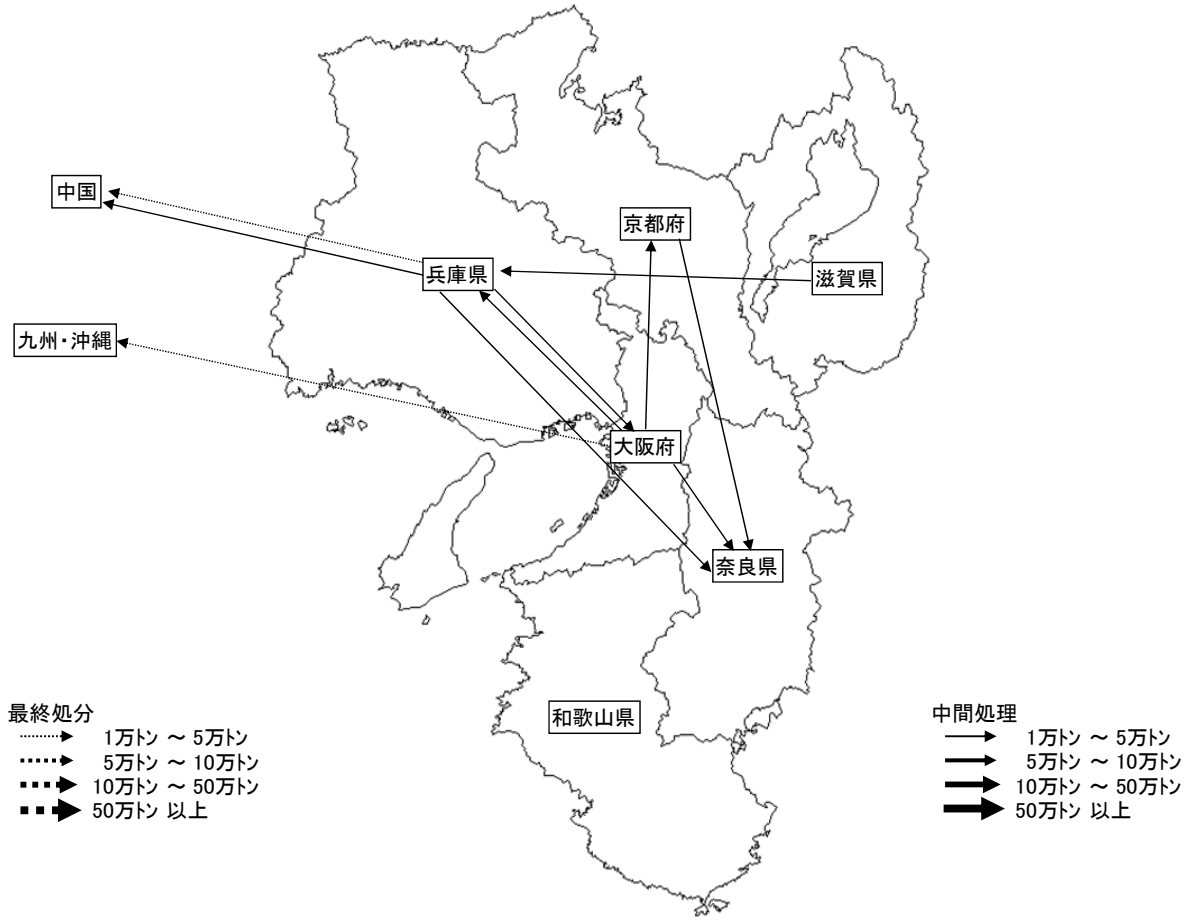


図 5-32 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量
(ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず)

(8) 廃油

近畿ブロック内において、排出府県を越えて処理される廃油は、中間処理目的量が 20.6 万トンとなっている。

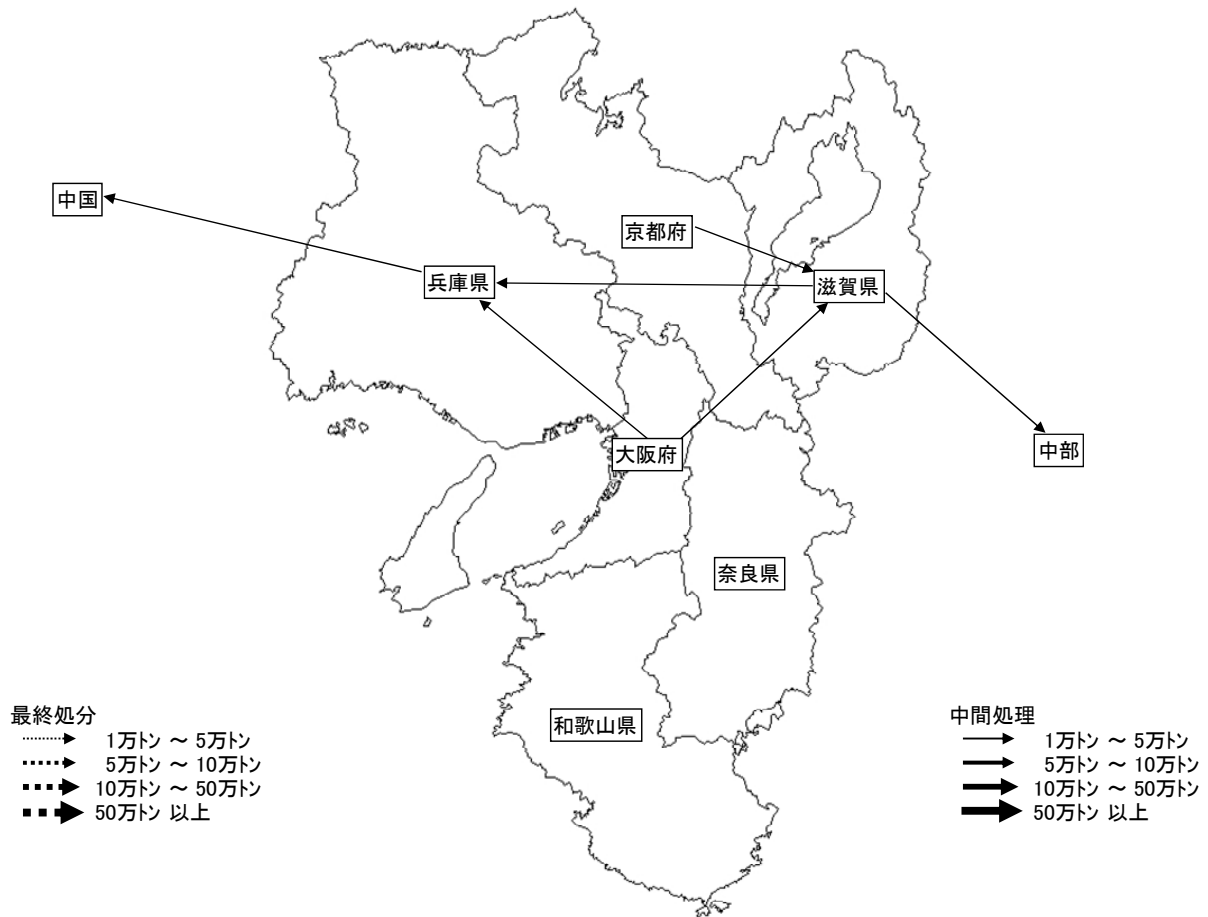


図 5-33 近畿ブロックにおける産業廃棄物の広域移動量（廃油）